

# い印経営塾 開催レポート

い印グループでは、農業経営者の育成支援を目指して、この平成 27 年 4 月から「い印経営塾」を開催しております。4 月は第一回目の開催でしたが、おかげ様をもちまして、参加者およそ 50 名を数えての大盛況となりました。以下内容を報告いたします。

## 【株式会社板東太郎・代表取締役・青谷洋治様の基調講演】

今回は株式会社板東太郎の代表取締役である青谷洋治様より、次のテーマで基調講演をいただきました。

「親孝行『人間大好き』～ 日本一幸せな企業を目指して～」

【株式会社 板東太郎 代表取締役 青谷 洋治 様】



独立した当時 40 年前は大量生産・大量販売によって日本を復興させようとする「進化」、次は他との差別化を図りこだわりを持つ「深化」、バブル期が終わり本物の商品・人といった本当の価値を問われた「真価」、4 年前の東北大震災を体験し家族と傍にいられる喜び、電気や水道があたりまえのように使える環境といった幸せとはこんなに近くにあるものだとの心の価値を再認識した「心価」。そしてこの進化論を基に個人ではなく地域全体で助け合い心の価値を中心にして物事を考え創造する「共創」する時代に来たと思います。つまり今の若い人たちにとっては心の価値を考える良い時代に戻ってきたと私は思っています。

食には色々な食があり、単なる食べるだけの食ではなく、命を育てる食、命を繋ぐ食をやりたい、その想いで今の仕事に就きました。

農業は大好きだし農業は大きな人、心の豊かな人であれば出来ないものだと私は思っています。ですから今回の講演も「人間大好き」という演題にしました。

農業にとって現状は TPP など風当たりの強い時代ではあるけれど農業は成長産業であると思っています。

農業を成功させるには環境や意識を整える必要があると思います。ある農家は農協に出荷しなくても大丈夫と言っていましたがそう簡単なことではないし、食品を扱う環境が整っていないとも思います。それにはどこにも負けない商品のブランド力をつけ、命に関わる食品を扱っているという誇りを持つことが大事だと思います。

過去から今を振り返るのでなく、未来から今を見て 5 年後・10 年後どうしたらいいか、どう変化しなければいけないかを考えることがとても重要だとも思います。

私は常々「小が大に勝つ」ことを考え仕事しています。小が大に勝つには 1 人 1 人が命がけでやれば勝てます。ある先生は成功と失敗は勘違いであると言っています。出来ないと思うのではなく脳に私は成功すると勘違いさせることが大事だと。その勘違いを負ける方で考えてしまうから駄目になってしまうわけで、勝てるイメージ、石岡の祭りで太鼓の音を聞いたときにわくわくするような高揚感を仕事・農業に落とし込んでいけばいい方向に進めると思いますし農業によって地域の活性化を図れると思います。そういう農業に対する姿勢、農業が好きなんだという想いが無いと次の若い世代にも引き継げなくなってしまいます。大事なのはお金が高い安いかではなく働く環境が幸せかどうかです。

最後に大切にしている言葉がありますのでそれを紹介させて頂きたいと思います。それは母親から言われた言葉ですが「お天道様が見てるよ」という言葉です。必ず一生懸命やれば人を見ていなくてもお天道様が見ているし、努力をしていれば裏切らないということです。そしてご先祖様を大切にし、おじいさん・おばあさんを大切にして故郷を離れたとしても必要とされる人、尊敬される人ができるような環境作りを大切にしていくことが大事だと思っています。



熱のこもった講演ありがとうございました。

### 『開催に関するご挨拶』

昨年暮れは大暴落、今年に入れば雨天が多くメロンなどは玉伸びしないなど生産者の方の苦労は多く、そのご努力に心から敬服申し上げます。

このところ若い生産者の方からの要望として「経営の勉強がしたい」という声が多いので、会長の萩原と検討してまいりました。日立公設市場が民営化となり、土浦、龍ヶ崎市場も同様です。我々も「頑張って売ります」だけではもう先が無く、生産者様と顧客様とそして、商流・物流・交流を一体化させた「い印グループ」との3者による三身一体の連携を築き上げて、お互いに一緒に伸びていきたいと思い、今回この『経営塾』を開催するに至りました。

実のある運営をしてまいりたく存じますので、様々なご意見を頂戴しますようお願いいたします。



【石岡中央青果株式会社 社長 鴨志田 正行】

### 『開催趣旨説明』

「経営」という切り口から勉強会をやって欲しいという皆さまのご要望に応じまして、今回からの経営塾連続の開催とさせていただきます。

消費現場は大きく変わっており、それに合わせて生産現場も対応しなければならないのだと考えます。当然流通現場も変化が必要ですが、変化についていけないというか、変化することを嫌がり、変化しないほうが楽だから旧態依然のまま現状に甘んじております。

最近では農業経営者に国からの補助金が目に見えて増えてきています。専業農家の中で、若い人たちは農業を産業として経営して拡大せざるを得ない方向性であり、物に対する投資、人の手配や問題解決法等を身に付けて、この国の農業を守り、発展させなければならないはずであると考えています。



【い印グループ会長 萩原 節夫】

経営はヒト・モノ・カネの管理と運営ですが、ただ良い物を一生懸命作っていれば良いというのではなく、それプラス、経営体としての農業をきちんと回していくという腹づもりを持ち、農業を経営するための知識・技術が必要なのではないかと常々感じています。

国からの補助＝国民からの血税を上手に利用して、産業化した農業を経営母体とし、きちんと経営の利益を上げて、それによって納税することで「農業経営者」として、胸を張って発展して欲しいと願っています。

それにはまず、経営者としての腹づもりを持っていただきたいと思っています。そして経営に必要な情報や啓蒙の機会は「い印グループ」がお手伝いさせていただきますと考えております。

◎講演の内容やご披露いただいた(株)坂東太郎様の会社案内ビデオを動画で視聴することができます。

限定公開状態ですので、視聴のご希望がありましたら石岡中央青果の担当者までお問合せ願います。

### 【次回開催予定】

平成 27 年 5 月 23 日 (土) 16 時～ (い印大会議室にて)

「農業者の知っておきたい税務や節税の知識」小野瀬税理士 参加費：1,000 円 ※終了後懇親会あり